

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団慶譲会		
事業所名	グループホーム仰星台	ユニット名	2号館
所在地	日向市大字塩見10946-1		
自己評価作成日	H26年6月24日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&liyosyoCd=4570600298-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔と挨拶」で毎朝一人一人に声掛けをし、日々目配り・気配り・心配りを実践しています。同じく地域の方々にも実践し地域の中に溶け込めるように心がけています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動に参加、隣保班に加入で挨拶も気軽に出来る様になってきています。運営推進会議を通し役員が変わるたびに顔見知りが増え、地域の方が経営されているお店でお花を買ったり届けていただくなど交流しています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホームの行事等を通して認知症の人の理解やご家族の相談に乗る機会を増やすよう努めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告等でホームの問題点やご家族の本音の意見を伺ういい機会と思えます。また地域の方々にはいろんな場面でホームを理解していただき、支援をお願いしています。地域の行事などのお誘いも受けています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席される職員の方とは、何でも相談で出来るよき理解者だと思っています。困ったことがあると相談をしたり、向こうからも色々アドバイスを頂いています。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアに努めていますが、一人での時間帯に頻繁に玄関先に行かれるためドアの半分だけ施錠をすることもあります。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように、市町村との連携や勉強会・研修に参加をすることで、言葉使いなど職員の意識を高めるように努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在これらの制度が必要な方はいませんが、研修会に参加をし制度は学んでいます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行いホームの内容を理解して頂けるように努めています。文章にて同意を頂き、面会時やご家族の言葉に耳を傾け不安や問題点についても率直にに応じています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部では支援事業者が窓口になっていることを伝え、苦情があった際には問題解決に努めます。利用者・ご家族が不満や苦情、相談をいつでも気軽に言って頂けるような雰囲気や関係を築くことに努めています。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回 ミーティングを開催し、職員間で意見交換を行っています。職員が何でも意見を出しやすい会議を設けています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を待って働けるように、職員の個々の努力や資格取得することで介護水準の向上心・やりがいに繋げています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて関連施設合同の勉強会が実施されています、研修会も職員の力量に合わせ、受ける機会を設けています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列のグループホームとは2カ月に1回 会議を開いておりホームでの抱えている問題点などを共有しサービスの質の向上・研修会等にも参加しています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の中には、新しいところには入りたくないと思っているようです。入居前に本人、ご家族にホーム内を見学してもらい不安を取り除くように努めています。、不安な気持ちを受け止め、笑顔や挨拶から入り信頼関係に努めています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時や入所時に本人とご家族の思い違いや、本人、家族の困っていること、要望に対して信頼関係を築くためにもしっかりと耳を傾け納得して頂けるような説明、相談に応じています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との初期面接の中出来るだけ詳細な情報を引出し本当に必要なサービスが提供できるように対応をしています。ほかのサービスや相談窓口についても説明をおこなっています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の生活の中で、利用者と一緒に何かをするたびに笑ったりと自然に心が通い合い暮らしをともにするもの同志の関係が築かれていると思います。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日食事介助にこられ、終わるとマッサージをしてください。2週間に1回はお花を持ち込み生け花をしたり一緒に歌を歌ったり、美容室、買い物や、家に連れて帰るなどそれぞれのご家族が絆を大切にされています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には行きつけの美容室があり定期的に行かれています。買い物なども良く行かれてたお店などを選んでます。またほかの施設でお友達だった方の所へ一緒にいくなど関係が途切れないような支援に努めています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や利用者同士の関係を把握しながら孤立することなく安心して生活出来る様な支援に努めています。落ち着きのない方に話掛けられたり、面倒を見てくれたりと利用者同志が支えあっている場面もみられます。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所され、入院されている方の顔を見に利用者と一緒にしています。また相談等にも、必要に応じて対応をしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝コーヒーとパンが食べたいとの希望が聞かれるようになり、ミーティング時に職員と利用者数名と話し合いの結果、月、木と決まり実施しています。ご飯も希望のかたには提供しています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から生活歴を聞いたり、本人との会話の中から生活歴を聞き導けるように努めています。昔はよく温泉に行っていたので行きたいとの希望があり2名ほど近くの温泉にいます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースや体調に合わせながらゆとりを持って対応しています。また、一人ひとりの心身の状態を把握しながら、定期的に今の状態を職員間で把握・報告しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に希望を聞いたり、月1回のミーティングで、それぞれが気付いた事や問題点などを話し合い、解決に向けて意見を出しあいながら改善に努め、介護計画を作成しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は体調面や以前とは違う日々の気づきがあればすぐに報告・申し送り等など記録に記載し、職員間で把握・情報を共有している。共有しながら介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者の要望に応じて通院の送迎や買い物、また、美容室の送迎などの支援をしています。			

宮崎県日向市 グループホーム仰星台1号館(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事である夕涼み会、餅つき大会には地域の民生委員、区長、老人会の方々がボランティアで参加をしてくれています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診をおこなっています。主治医とは急変時、突発的な場合でもすぐに連絡が取れる状態にあります。利用者の中には他の病院にかかりつけ医を持っておられ家族同伴で受診をしています。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは医療連携を図っており、常に看護師とは連絡が取れる状態にあり、報告連絡、相談を行っています。体調に変化があった場合は早期に受診するなどの対応をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が院中は常に面会に行き主治医より病状、状態の説明を聞いたり、主治医を中心に病院関係者(ソーシャルワーカー)やご家族と退院やこれからの事などの話し合いをもっています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者のご家族と主治医、管理者、看護師を交えこれからのことについて話し合いを行います。ご家族の要望などを伺いながら事業所で出来ることや不可能なことなどの説明をします。また、状態の変化に伴い再度確認を行いご家族を支援できるように取り組んでいます			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連施設合同で救命救急法を取り入れた勉強会をおこなっています。またホーム内でも緊急時の対応や連絡方法を訓練しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は防災意識をもち定期的に消防団立会いのもと避難訓練や消火訓練などを実施しています。また運営推進会議のなかでも民生委員、区長、消防団、隣保班の協力を得られるように働きかけています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用書一人ひとりに対して、職員は人生を重ねてきた人として尊重し、プライドや誇りを傷つけないように、言葉掛けや対応に十分に気をつけている。個人情報の書類物は第三者の目に触れなうような慎重に取り扱っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	～がしたい。～が食べたい。～に行きたい。などの希望や要望に近づけるように心がけています。またお茶の好みや洋服選びも自己決定ができるようにし、意思表示の困難な方には簡単な返答が出来る様に働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、(ぬり絵・調理・生け花)をされる方の希望に沿った生活が出来るように提供している。また一人ひとりのペースを大切に、体調などにも配慮しながら支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洋服を一緒に選んだり、外出時には身だしなみやお洒落に気配り、本人の好みを大切にしています。中には行きつけの美容室に行かれる方もいます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ね、調理の下ごしらえや味付けなど、食事作りに参加し料理の感想など意見を言ってもらおう。パンが食べたい方もおり、パン食も提供しながら、食事を美味しく食べる事が出来るような雰囲気作りに努めている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェックを併用しながら、水分不足の方にはお茶ゼリーやジュース・牛乳などで水分補給に努めます。献立も偏らないように心掛けています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアなど、声掛けを行い一人ひとりの状態に合わせ、無理強いしないでその人に合ったケアを心掛けています。入れ歯洗浄剤も毎日使用し、歯科受診もご家族、本人と相談しながら対応をしています。			

宮崎県日向市 グループホーム仰星台1号館(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちに寄り添いながら、無理には勧めず誘導を行っている。不快な時間やパット使用時間が長くない様は排泄チェック表を確認しながら行っている。尿便意のない方でも排泄パターンを把握する事で自立に向けた支援に努めています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認しながら、日々の水分補給と一緒に散歩・適度の運動にリハビリ体操など、出来るだけ自然排便を出す事ができるような支援をしています。食物繊維の多い物を心掛けバランスの良い食事に気を付けています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は1日置きの入浴になっていますが、本人の希望を第一に考え、入浴の好きな方は毎日入られたりと自由な入浴をされています。入浴剤を活用したりとゆったり入浴ができるよう心掛けています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に戻られテレビをゆっくりされる方、昼寝やソファで過ごされる方など、本人の希望を優先しています。時折、レクリエーション・リハビリ体操・外気欲などメリハリの時間も設けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用される時は、飲み残しやこぼれ、また誤訳の無いように十分気をつけ対応しています。薬の目的や副作用・用法については、薬の説明書で確認、主治医や看護師から伝達を受けています。体調変化など職員間で理解・把握し支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や飲み物のリクエストを聞いたり、野菜きり・味付け・洗濯たたみ・干しなど一人ひとりに合った役割をお願いしています。四季折々に団子や梅干を漬けたり季節のものにも力を発揮しています。天気の良い日は外で昼食・外食・ドライブなどに出掛け気分転換を図っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの施設や温泉に出掛けたり、ホームの食材買いや買い物に出掛ける様に努めています。御家族の協力もあり外出や外食され、近況報告など体調確認しながらドライブなど出掛ける支援を行っています。また御家族と連絡を取り自宅にも行けるよう支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたいとの希望があれば連れていき、店内で自分の好きな物を選んでもらいレジで支払いが出来るような支援をしています。使ったお金の報告は請求書の郵送時にしたり、面会時に残高の確認をしていただきサインをもらってます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	安心して生活が出来る様に、本人が電話をしたいとか連絡して欲しいなどのがあった場合はいつでも連絡が取れます。月1回は利用者の状況を請求書と一緒に報告をしています。手紙の書ける方は支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活館や季節感を感じていただけるような装飾に心がけています。証明や温度、香りなどにも気を配り癒されるような気配りをしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き気のあった利用者同志でテレビを見られたり、おしゃべりをされています。自室にもテレビを設置し自由に過ごすことができます。また畳の部屋で好きな時に寛がれるようにしています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、趣味、お気に入りグッズなど本人が居心地よく過ごせるように、ご家族に協力をいただき安心して生活ができるような工夫をしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に「車椅子は必ずブレーキをかけましょう」などで意識づけをおこない転倒防止に努めています。トイレの場所への表示、風呂場には鍵を掛けたり「準備中」などを表示しています。また食事は「ゆっくり食べます」の目標表示			